＜株式会社シークスの健康経営目標と取り組み状況＞

≪Ⅰ．健康経営の推進目的と目標≫

１．目的

当社の従業員の健康状態において、肥満リスク者の割合は 35.7％（前年比 4.0pt 改善)、治療放置者率は 11.4％（前年比 1.5pt 改善）とそれぞれ改善傾向にあるものの、依然として注意が必要な水準にある。これらは生活習慣病の発症や将来的な重症化リスクに直結するため、運動習慣や食生活等を通じた継続的な生活習慣の見直しが喫緊の課題となっている。

また、メンタルヘルスおよび組織活力の観点では、ワークエンゲイジメントが 2.3 点（前年比 0.1 点上昇）とわずかに向上した一方で、高ストレス者割合は 4.3%（前年比 0.4pt 悪化）と増加傾向にある。 これらのフィジカル・メンタル両面における課題を根本的に解決するためには、従業員自身の健康に対する意識や知識を高めることが不可欠である。

以上の背景から、当社の健康課題を「ヘルスリテラシーの向上」と定め、社員一人ひとりが自律的に健康づくりに取り組み、心身ともに健康で活き活きと働ける会社を実現することを推進の目的とする。

２．目標（2030 年）

(1)　健康年齢の改善

・健康年齢と実年齢の差±0 歳

(2)　プレゼンティーイズムの改善

・損失率 13%未満

(3)　ワークエンゲイジメントの向上

・ワークエンゲイジメント 3.0 点以上

◆目標値の根拠

(1)　健康年齢と実年齢の差±0 歳…社員が年齢相応に健康な状態を維持しているかを可視化できる。差が大きい場合、将来的な疾病リスクや生産性低下につながるため、ゼロに近づけることが望ましい。

(2)　プレゼンティーイズム 13%未満…SPQ（東大 1 項目版）では、日本人の平均は 15.1%となっている。選考調査における平均値や優良企業の水準を参考に設定している。

(3)　ワークエンゲイジメント 3.0 点以上…新職業性ストレス簡易調査票におけるワークエンゲイジメントの全国平均は 2.5 点だが、活き活きと働ける職場づくりを推進するため、平均値を超える 3.0 点以上を目標指標として掲げた。

≪Ⅱ．施策≫

１．健康診断の事後措置の強化【2025 年実績】

(1)　要精密検査者の受診率　54.3%（前年度比+5.4Pt）

・産業保健師による個別の受診勧奨を継続して実施した。

・保健師の勧奨のみでは受診に至らない従業員に対しては、産業医との面談を実施し、受診の必要性を直接指導した。

(2)　治療放置者率　11.4%(前年度比-1.5Pt)

・健康保険組合と連携し、直接自宅に案内書を送付するのではなく、上長から手渡しいただくよう体制を整えた。

・産業保健師からもメールにて個別の受診勧奨通知を実施した。

・各健診機関からの結果報告を通じた通知を実施した（※通知方法は各機関の規定に準ずる）。

＊判定基準

血糖値：空腹時血糖 140mg/dL 以上、または HbA1c 7.0%以上

血圧：収縮期血圧 160mmHg 以上、または拡張期血圧 100mmHg 以上

脂質：空腹時中性脂肪 400mg/dL 以上、または LDL コレステロール 160mg/dL 以上、または HDL コレステロール 30mg/dL 未満

※各項目のいずれか 1 つでも該当する場合を対象とする。

２．社員のヘルスリテラシー向上を促進

(1)　社内外の講師によるメンタルヘルス研修の実施（2007 年 4 月～）

(2)　運動習慣定着のため、徒歩通勤や自転車通勤のための金銭支援（2016 年 4 月～）

(3)　ウォーキングイベントの開催（2017 年 3 月～）

(4)　料理教室の開催（2017 年 6 月～）

(5)　フィットネス教室の開催（2018 年 6 月～）

(6)　職場外のスポーツクラブの利用補助を導入（健康保険組合）

(7)　管理栄養士による食事栄養指導・相談窓口の設置（2019 年 1 月～）

(8)　女性の健康セミナーの実施（2021 年 11 月～）

(9)　生活習慣アンケート【ヘルスチェック】実施（2021 年 12 月～）

(10)　喫煙者に対して年齢やブリンクマン指数に沿った禁煙指導を実施（2022 年 4 月～）

(11)　健診の希望調査時にがん検診の受診勧奨を実施（2022 年 4 月～）

(12)　オフィスに【セルフチェックコーナー】を設置し、血圧測定器を設置（2022 年 10 月～）

(13)　マラソンなどの完走証提出で手当支給する制度『健康促進手当』導入（2023 年 6 月～）

(14)　特定保健指導（初回面談）勤務時間内の実施を推奨（2025 年 7 月～）

３．働きやすい職場を促進

(1)　コミュニケーション促進を目的とした交流会に対しての金銭支援（2001 年 9 月～）
(2)　治療と仕事の両立のため、フレックスタイム制（コアタイム無し）導入（2002 年 10 月～）
(3)　職場復帰支援として、外部医療機関と提携しリワークプログラムを導入（2002 年 10 月～）
(4)　社内外に各種相談窓口を設置・周知（2007 年 4 月～）
(5)　産業医の他、臨床心理士、精神保健福祉士と連携したサポート体制を導入（2007 年 10 月～）
(6)　リモートワーク　導入（2020 年 4 月～）
(7)　職場内全面禁煙の実施（2020 年 10 月～）
(8)　フリーアドレスオフィス　導入（2021 年 4 月～）
(9)　取引先へ、自社で開発した生活習慣病のリスクを評価するツールを提供（2022 年 10 月）
(10)　勤務間インターバル制度　導入（2025 年 7 月～）


料理教室の様子


フィットネス教室の様子


ウォーキングイベントの様子


メンタルヘルス研修の様子

４．安全衛生委員会にて施策に関する議論の場を設定

月度	テーマ
4 月	健康経営：調査票フィードバックと次年度の施策
5 月	禁煙の推進
6 月	熱中症対策
7 月	睡眠
8 月	定期健康診断事後措置：健診結果の見方
9 月	感染症予防対策（インフルエンザ予防と正しい知識）
10 月	メンタルヘルス予防対策（ストレスチェック）
11 月	肩こり・腰痛予防
12 月	生活習慣病予防
1 月	ストレスチェック集団分析結果報告
2 月	花粉症対策（薬の飲み方・副作用への理解）
3 月	安全教育

≪Ⅲ．結果≫

１．目標に対する結果

重点項目(期待する効果) ◎…重要目標達成指標（KGI）	指標	2030 年度 目標	2025 年度 実績
◎健康年齢の改善	健康年齢と実年齢の差	±0 歳	1.1 歳
・治療放置者の低減	治療放置者率	5%未満	11.4%
・肥満リスク者の低減	肥満リスク者割合	30%未満	35.7%
◎ワークエンゲイジメントの向上	ワークエンゲイジメント	3.0 点以上	2.3 点
・ヘルスリテラシー・ セルフケア教育の実施	女性の健康教育受講率	90%以上	82.1%
・高ストレス者の低減	高ストレス者率	5%未満	4.3%

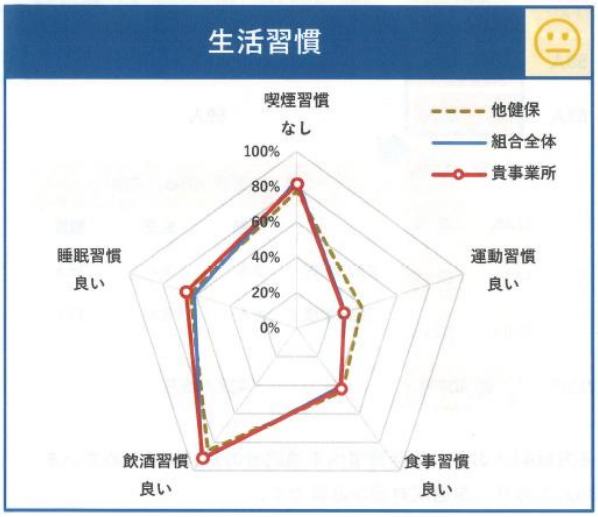
◆ワークエンゲイジメント測定方法

新職業性ストレス調査票にて、ユトレヒト・ワーク・エンゲージメント尺度を測定。実績値は全従業員平均。測定人数/回答率：486 人/97.2%

【生活習慣レーダーチャート】

生活習慣レーダーチャート（2025年度）・経年変化

赤色の線（貴事業所）が外側に広がるほど良好な状態（良好者の割合が高い）であることを示している。



生活習慣の経年変化		2023	2024	2025	2025評価
喫煙習慣なし	貴事業所	79.9%	79.8%	81.5%	😐
	組合全体	83.2%	83.2%	83.5%	
運動習慣良い	貴事業所	27.0%	26.4%	27.9%	😐
	組合全体	26.0%	27.6%	28.5%	
食事習慣良い	貴事業所	39.6%	41.6%	42.4%	😐
	組合全体	41.6%	41.5%	41.3%	
飲酒習慣良い	貴事業所	93.4%	93.1%	91.2%	😐
	組合全体	91.4%	91.7%	92.0%	
睡眠習慣良い	貴事業所	64.1%	68.0%	66.2%	🙂
	組合全体	62.2%	61.4%	61.2%	

生活習慣の状況については、【食事習慣が良い】が 42.4%（前年比＋0.8pt）、【運動習慣が良い】が 27.9%（前年比＋1.5pt）と経年比較では改善の兆しがみられる。しかし、全体の割合から見ると依然として低い水準に留まっており、生活習慣病リスクの根本的な低減に向けて、より積極的な介入や対策の実行が必要である。

また、【睡眠習慣が良い】の割合は 66.2%と全体としては比較的良好な水準にあるものの、近年は悪化傾向（前年比-1.8pt）を示している。睡眠の質の低下はプレゼンティーイズムやメンタルヘルスに直結するため、深刻な課題として顕在化する前に早期の予防的な施策を打つ必要がある。

なお、【喫煙習慣が良い】は 81.5%（前年比＋1.7pt）、【飲酒習慣が良い】は 91.2%（前年比-1.9pt）と微小な変化はあるものの、総じて高い水準を維持している。

【分析定義】

■生活習慣レーダーチャート・経年変化

生活習慣病に注目した事業所の健康行動・健康意識を組合全体および他健保と比較

●喫煙習慣なし：「習慣的な喫煙の有無」に回答した者のうち、※1「最近１か月間は吸っていない」または「いいえ」と回答した者の割合

●運動習慣良い：※2運動習慣に関する3つの問診項目のうち2つ以上が適切

●食事習慣良い：※3食事習慣に関する4つの問診項目のうち3つ以上が適切

●飲酒習慣良い：※4「多量飲酒群」に該当しない者の割合

●睡眠習慣良い：「睡眠で休養が十分とれていますか」に回答した者のうち、「はい」と回答した者の割合

※1「最近１か月間は吸っていない」：2024年度から追加された選択肢のため、2023年度までは「いいえ」と回答した者のみを喫煙なしと判定

※2　運動習慣に関する問診項目の「適切」の該当基準
①「30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施」に「はい」と回答
②「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施」に「はい」と回答
③「ほぼ同じ年齢の同性と比較して歩く速度が速い」に「はい」と回答

※3　食事習慣に関する問診項目の「適切」の該当基準
①「人と比較して食べる速度が速い」に「ふつう」または「遅い」と回答
②「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」に「いいえ」と回答
③「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取している」に「ほとんど摂取しない」と回答
④「朝食を抜くことが週に3回以上ある」に「いいえ」と回答

※4「多量飲酒群」の該当基準



尚、飲酒頻度と飲酒量については、2024年度から回答の選択肢が変更になっているため、2023年度までは以下の基準を多量飲酒群とする

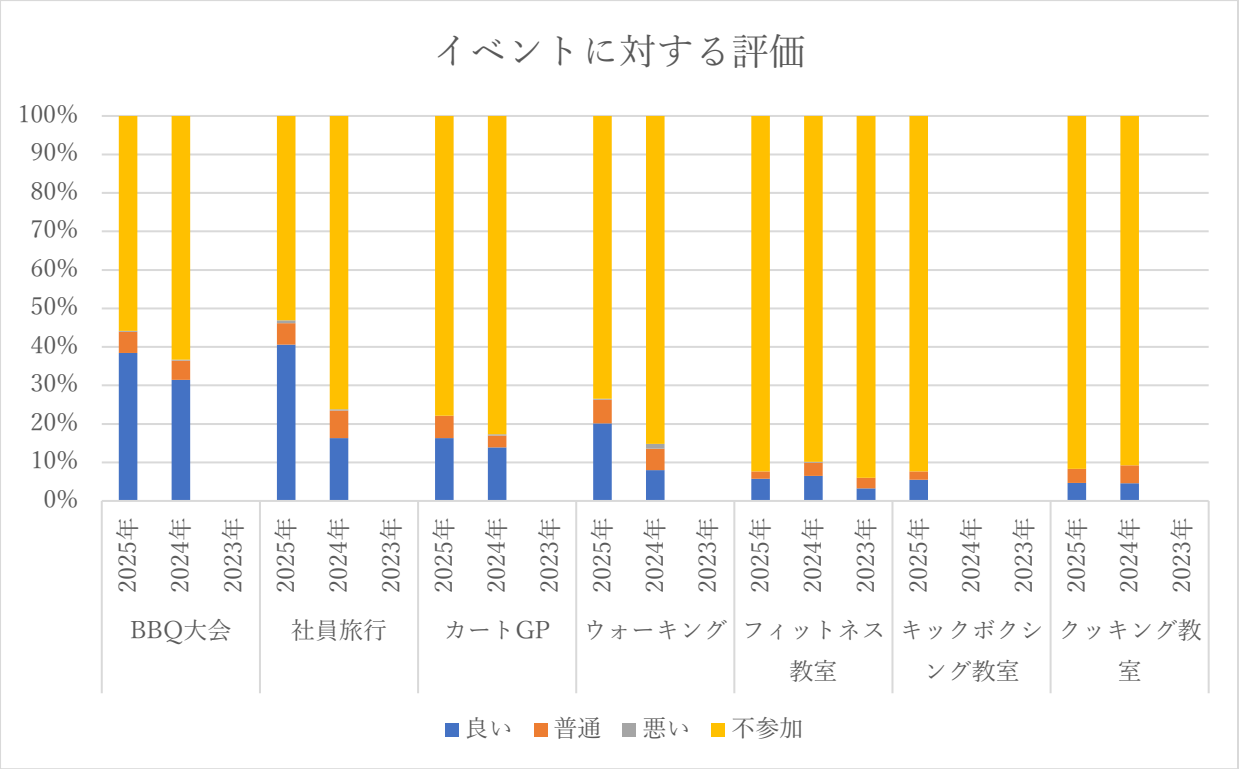


各項目の判定（顔マーク）：組合全体平均を100とした場合の貴事業所の相対値（スコア）の5段階評価

＊総合判定は、定義に記載の算出方法に基き得られた健康状況の5項目の平均値で判定

115以上：🙂（かなり良好）、105～115未満：🙂（良好）、95～105未満：😐（平均と同程度）、85～95未満：☹（不良）、85未満：☹（かなり不良）

【イベントに対する評価】



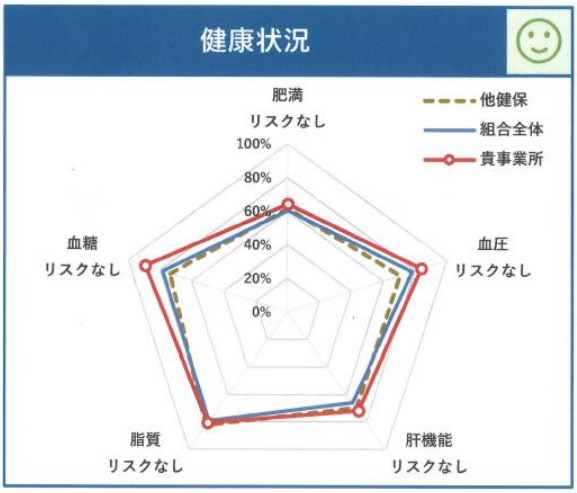
社内イベントに対する評価および参加状況については、いずれのイベントにおいても「悪い」の評価は極めて少なく、参加者の満足度は総じて高い傾向にある。特に「社員旅行」や「BBQ 大会」、「ウォーキング」などのイベントでは、2024 年から 2025 年にかけて不参加率が低下し、「良い」と評価する割合が大きく上昇した。中でも社員旅行やウォーキングは、参加率・満足度ともに顕著な伸びをみせている。

一方で、「フィットネス教室」や「クッキング教室」といった教室型のイベントは、定員が限られるため不参加率が 9 割を超える状況にある。しかし、参加者からの満足度は非常に高い。こうした中、新たに導入した「キックボクシング教室」は大変好評を博し、「次年度も開催してほしい」との声が多数寄せられた。この結果を踏まえ、今後は定員枠の拡大や開催頻度の見直しを行い、より多くの従業員が参加できる機会を創出することが求められる。

【健康状況レーダーチャート・経年変化】

健康状況レーダーチャート（2025年度）・経年変化

赤色の線（貴事業所）が外側に広がるほど良好な状態（正常者の割合が高い）であることを示している。



健康状況の経年変化		2023	2024	2025	2025 評価
肥満リスクなし	貴事業所	61.7%	60.3%	64.3%	
	組合全体	61.4%	60.6%	60.3%	
血圧リスクなし	貴事業所	82.0%	83.9%	83.8%	
	組合全体	77.0%	77.3%	77.9%	
肝機能リスクなし	貴事業所	66.0%	67.2%	71.9%	
	組合全体	65.3%	65.2%	66.0%	
脂質リスクなし	貴事業所	76.4%	76.4%	80.9%	
	組合全体	78.0%	78.7%	79.2%	
血糖リスクなし	貴事業所	85.3%	84.9%	89.1%	
	組合全体	79.1%	78.0%	78.4%	

■健康状況レーダーチャート・経年変化

健診を実施した者のうち、※1有所見者に該当しない者の割合を組合全体および他健保と比較

※1：有所見者の定義（カテゴリーごとに１項目でも検査数値がある者を集計対象とする）

肥満		血圧		肝機能			脂質			※2血糖	
BMI	腹囲	収縮期血圧	拡張期血圧	AST	ALT	γ-GT	※3中性脂肪 空腹時	※3中性脂肪 随時	HDL コレステロール	空腹時血糖	HbA1c
25	男性：85cm 女性：90cm	130mmHg	85mmHg	31U/L	31U/L	51U/L	150mg/dL	175mg/dL	39mg/dL	100mg/dL	5.6%

▲HDLコレステロールは基準値以下、他は基準値以上が該当　※2：空腹時血糖及びHbA1cの両方を測定している場合は、空腹時血糖値を優先　※3：2023年度までは、中性脂肪（随時中性脂肪を含む）を空腹時の基準で使用

各項目の判定（旗マーク）：組合全体平均を100とした場合の貴事業所の相対値（スコア）の5段階評価

＊総合判定は、定義に記載の算出方法に基き導かれた健康状況の5項目の平均値で判定

115以上：（かなり良好）、105～115未満：（良好）、95～105未満：（平均と同程度）、85～95未満：（不良）、85未満：（かなり不良）

健康診断における主要リスク項目の推移をみると、2025 年度は血圧を除く全項目で前年度から 4.0pt 以上の大幅な改善がみられた。特に、【脂質リスクなし】は 80.9%（前年比＋4.5pt）、【血糖リスクなし】は 89.1%（前年比＋4.2pt）と、高い水準で顕著な改善を示している。

一方で、各項目の中で最も「リスクなし」の割合が低いのは【肥満リスクなし】の 64.3%（前年比＋4.0pt）であり、全体の約 3.5 割が依然として肥満リスクを抱えている状態である。次いで【肝機能リスクなし】も 71.9%に留まっている。

肥満や肝機能のリスクは、運動習慣や食生活等の生活習慣と密接に関連している。今後は、良好な改善傾向にある脂質・血糖のリスク低減を維持しつつ、最大の課題である肥満リスクの解消に向けた、継続的な生活習慣の見直しが喫緊の課題となっている。

２．健康と生産性の分析

	2023 年度実績値	2024 年度実績値	2025 年度実績値	測定人数/回答率
アブセンティーイズム	3.4 日	2.4 日	3.0 日	508/100%
プレゼンティーイズム	19%	16%	16%	405 人/82.0%

【測定方法】
アブセンティーイズム：傷病を理由とした欠勤や有給休暇の取得日数の全従業員平均
プレゼンティーイズム：SPQ（Single-Item Presenteeism Question 東大 1 項目版）を用いた従業員調査を実施。実績値は回答の平均。

＜アブセンティーイズムが与えている影響＞

勤怠管理ツールにより、突発（傷病）にて休暇を取得した日数を確認している。

・2025 年度対象従業員数：508 人
・突発（傷病）休業平均日数：3.0 日

アブセンティーイズム（病気やけがなどにより、労務提供がなされなかった）により、計 1,524 日分（508 人×3.0 日）が関わる組織へ影響し、生産性や業務効率の低下を引き起こしているものと考えられる。

＜プレゼンティーイズムが与えている影響＞

従業員アンケートにより、2025 年度のプレゼンティーイズム（生産性低下率）を算出している。生産性低下率は、SPQ（東大 1 項目版）「病気やけがなどがないときに発揮できる仕事の出来を 100%として過去 4 週間の自身の仕事を評価（1～100%）」を用いた。

社員一人当たりの年間売上高が約 800 万円のため、生産性低下率 16%とすると、会社全体の年間損失額は 6 億 160 万円となる。

３．健康経営の取り組みによる効果

＜企業経営に対する効果＞

当社は、アウトソーシング事業であることから、事業運営において社員の健康は最も優先すべき重点事項である。昨年度の組織課題指標においては、ワークエンゲイジメントが微増、プレゼンティーイズムが横ばいとなった。一方で、アブセンティーイズムおよび離職率には悪化がみられた。この結果を重く受け止め、社員一人ひとりが活き活きと安心して働ける環境を再構築すべく、引き続き全社的な健康づくり支援と組織的な健康活動を推進していく。

＜健康課題の改善に関する効果＞

今回の取り組みにおいては、『社員一人ひとりが心身ともに健康で活き活き働ける会社づくりの推進』という目標のもと、各種指標の推移を確認した。

身体面の指標では、肥満リスク者の割合が 35.7%（前年度比-4.0pt）、健康年齢と実年齢の差が 1.1 歳（前年度比-0.1 歳）となり、前年に比べ着実な改善がみられた。しかし、肥満リスクは依然として全体の 3 割強を占めており、生活習慣病の発症や生産性低下の主要因となるため、さらなる改善策が必要な状況にある。

また、プロセス指標である特定保健指導の実施率は 14.3%と大きく悪化した。これは対象者が固定化する中で、実際に「前年度受講したから今年は不要」といった声も挙がっており、マンネリ化が生じていることが要因の１つである。現状の「対象者の自主性に委ねるオンライン実施」のみでは限界があるため、今後は対面での実施機会を組み込むなど、アプローチ方法の根本

的な見直しが必要である。

ヘルスリテラシー・セルフケア教育については、2025 年度は従業員のパフォーマンスに直結する「女性の健康セミナー」を実施した。自身の体調変化やホルモンバランスを正しく管理するリテラシー向上は、プレゼンティーイズムの解消や高ストレス化の予防に不可欠である。結果として 82.1%という高い受講率を獲得し、男性社員からも「女性の健康について深く理解できた」等の前向きな反響が多く寄せられ、ワークエンゲイジメントも 2.3 点（前年比＋0.1pt）と改善傾向を示した。

＜総括と今後の展望＞

今年度は肥満リスクの低減や健康年齢の改善といった結果指標において一定の成果を上げた。しかし、特定保健指導実施率をはじめとするプロセス指標の悪化は、将来的な結果指標の悪化を暗示する重大なアラートである。今後は保健指導の実効性を高めつつ、生活習慣の改善を推進し、行動と結果の両面から健康経営目標の達成を目指す。

今後も社員の健康を第一に考え、実効性の高い施策を継続・アップデートしていくことで、パフォーマンスを最大化しながら利益を創出し続けるサステナブル経営を実現する。

４．取引先・他社への健康経営の支援の取り組み

取引先・他社への健康経営の支援として、健康チェックツールを提供し、使用方法や目的、健康経営推進への活用について説明した。

サプライチェーン全体の共存共栄を目指して、「パートナーシップ構築宣言」においても公表している。

URL：https://www.biz-partnership.jp

５．社外評価

・2025 年 11 月　愛知県健康経営推進企業更新（2022 年登録）

・2026 年 3 月　健康経営優良法人（大規模法人部門）8 年連続認定

直近 5 年では、2024 年度、2025 年度にホワイト 500 認定

６．労働安全衛生

当社は ISO45001 は未導入だが、従業員の安全と健康を確保し、快適な職場環境を促進するため、「安全衛生規程」および就業規則に定める条項に基づき、以下の活動を推進している。

◆具体的な取り組み

・安全衛生委員会を毎月定期的に開催し、継続的な活動と PDCA サイクルを確保している。

・労働災害防止のため、毎月職場巡視・リスクアセスメントを実施し、潜在的な危険因子を特定。特定したリスクに対する回避策を講じている。

・健康管理では、定期健康診断およびストレスチェックを適切に実施するほか、健康増進施策、メンタルヘルス対応による職場環境の改善、感染症対策に積極的に取り組んでいる。

指標	2024 年度	2025 年度	2026 年度目標
労働災害発生件数*	0 件	0 件	0 件

*4 日以上の休職を伴うもの

（2026 年 10 月 1 日更新）

2025年度　健康サポートG目標と活動

	目標	指標	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 目標値	2030年 中期目標値	取り組み	投資額
健康的なカラダ	健康年齢の改善	**◎健康年齢と実年齢の差**	**+0.9歳**	**+1.2歳**	**+1.1歳**	**+0.5歳未満**	**±0歳未満**	-	-
	治療放置者の低減	定期健康診断受診率	100%	100%	100%	100%維持	100%維持	受診勧奨	健診費等40万円
		有所見率	54.9%	52.8%	52.9%	-	-		
		精密検査受診率	32.6%	48.9%	54.3%	60%以上	80%以上		
		治療放置者率	11.4%	12.9%	11.4%	10%未満	5%未満		
		特定保健指導実施率	20.0%	30.8%	14.3%	40%以上	50%以上		
	運動習慣定着	フィットネス教室への参加率(定員限られる*1)	4.5%	4.2%	3.4%	5%以上	10%以上	フィットネス教室の開催	40万円
		ウォーキングイベント参加率	11.0%	14.6%	20.4%	15%以上	20%以上	ウォーキングイベントの開催	30万円
		モータースポーツイベント参加率	12.4%	9.8%	9.2%	15%以上	20%以上	カートイベントの開催	90万円
		健康促進手当申請率(2023年度より)	7.5%	8.3%	7.2%	10%以上	15%以上	制度新設	80万円
		運動合計	31.6%	29.5%	32.7%	35%以上	40%以上	制度,イベント参加率合計	-
	食生活改善	料理教室参加率(定員限られる*1)	4.3%	3.3%	3.8%	5%以上	10%以上	料理教室の開催	35万円
		ヘルスチェック受検率	86.3%	92.7%	93.8%	93%以上	95%以上	ヘルスチェック実施	-
	がん検診受診率の向上	胃がん検査（40歳以上）	82.6%	77.9%	78.0%	80%以上	80%以上	受診勧奨 女性の健康セミナーの実施 参加率：管理職100%	健診費等と同様
		大腸がん検査（40歳以上）	73.2%	77.9%	78.6%	80%以上	80%以上		
		乳がん検査（20歳以上女性,2年に1度）	74.4%	62.1%	64.7%	70%以上	80%以上		
		子宮がん検査（20歳以上女性,2年に1度）	73.3%	62.1%	73.3%	70%以上	80%以上		
		がん検査受診率(40歳以上で何らかのがん受診者)	84.6%	81.2%	81.1%	85%以上	90%以上		
	喫煙率の低減	喫煙率	20.1%	20.2%	18.5%	20%未満	18%未満	禁煙促進活動	-
健康的なココロ	メンタル不調予防	ストレスチェック受検率	94.8%	93.6%	97.2%	90%以上	95%以上	ストレスチェック受検勧奨	各種外部EAP 面談費10万円 研修費15万円
		高ストレス者率	6.7%	3.9%	4.3%	6.5%未満	5%未満	メンタルヘルス研修	
		平均時間外労働時間	15.6h	16.0h	15.8h	20h未満	20h未満	長時間労働抑制	
健康的な職場	満足度・生産性向上	**◎ワークエンゲイジメント**	**2.2点**	**2.2点**	**2.3点**	**2.5点以上**	**3.0点以上**	ストレスチェック集団分析 ワークエンゲイジメント ラインケア教育	-
		平均有給休暇取得率	90.6%	87.3%	91.8%	80%以上	90%以上	ワーク・ライフ・バランス	-
		コミュニケーション促進イベント参加率	51.1%	79.0%	86.4%	80%以上	80%以上	親睦会制度利用	280万円
		男性の育児休業取得率	42.8%	85.7%	100.0%	30%以上	50%以上	管理職研修	-
		離職率	8.5%	7.2%	8.7%	10%未満	8%未満	-	-
		アブセンティーイズム	3.4日	2.4日	3.0日	2.0日未満	1.5日未満	-	-
		プレゼンティーイズム(損失)	19%	16%	16%	15%未満	13%未満	-	-
		労働災害発生件数*2	0件	0件	0件	0件維持	0件維持	ヒヤリハット報告等	-

◎KGI（重要目標達成指標） *1イベント定員：料理教室 年3回(16名/回)、フィットネス教室 年4回(30名/回)　*24日以上の休業を伴うもの　　Total　620万円